



としょかんだより



秋の読書週間 10/27~11/9

2014年 第68回 読書週間標語 『めくる めぐる 本の世界』

終戦の2年後の1947年（昭和22年）、まだ戦火の傷痕が至るところに残っていると、**「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」**と決意をひとつに、出版社、取次会社、書店と公共図書館が力を合わせ、さらに新聞・放送のマスコミ機関の協力ののもとに、第1回**「読書週間」**が開催されました。それから60年以上が過ぎ、「読書週間」は国民的行事として定着し、日本は世界有数の**「本を読む国民」**の国となりました。

今年は『めくる めぐる 本の世界』を標語に一冊でも多くの心に残る本、素敵な本と出会う機会となるよう、心を込めて次のような取り組みを実施します。皆さんぜひ図書館へ足を運び、読書週間をたっぷり堪能して下さいね！

読書週間キャンペーン

- 全校貸出 100冊ごとに図書カードをプレゼント！50冊ごとににもプレゼントを用意しています。
- 雑誌のバックナンバーを配布！
- 過去に人気のあった本、図書委員・先生方お勧めの本を『本の福袋』にして貸出します。意外な本との出会いをぜひ楽しんで下さい！

校長先生おすすめの本

図書館に入ってすぐの所に、『校長先生のおすすめ本』コーナーを新しく設けました。月替わりで置いていく予定です。皆さんぜひ利用して下さいね！

10月は・・・

- 疲れすぎて眠れぬ夜のために（内田樹）
- 風土（和辻哲郎）
- 山月記、名人伝（中島敦）
- 島へ免許を取りに行く（星野博美）
- 人間失格（太宰治）
- 思い出トランプ（向田邦子）
- ルポ貧困大国アメリカ（堤未果）
- 兔の眼（灰谷健次郎）
- 項羽と劉邦（司馬遼太郎）
- 蝶々の纏足 風葬の教室（山田詠美）

などを置いています。





秋の読書週間特別企画！ということで、研修図書部の先生方に、1 高校生の時の読書の思い出 2 五高生にぜひ読んでほしい一冊を教えてくださいました。

永山一朗先生



1 高校生のときは、本はまあよく読んでいました。村上龍とか村上春樹とか山田詠美とか・・・が多かったような。高校生ってやっぱりいつの時代も毎日同じようなことの繰り返しで、すごく世界が狭いですよね。そんな世界からドーンと窓を開けて違う世界を見せてくれるような、そんな作家の本が好きでした。特に村上龍なんかは自分の海外志向をさらに強めてくれました。と考えると、高校の頃の読書がなかったら英語の教員にはなってなかったかもな～。



2 「祈りの幕が下りるとき」東野圭吾

最近は何よりもたくさん本を読んでいるわけじゃないのですが、私の知っている範囲だと、今の作家ではやはり東野圭吾が一番じゃないかと思います。ミステリー作家という範疇を完全に超えていて、読書中も読書後もそのストーリーについて深く考えさせられるものが多い。その中でもこの本は格別で、よく売れていたガリレオシリーズとかには大してはまらなかったのですが、これ一冊で完全にノックアウトされました。それ以来彼の信奉者となってしまいました。家族一人一人の心情とかなんでこんなに繊細に書けるのだろう。

奥村真也先生



1 高校時代の私は現在の君たちと同じで、勉強と部活(レスリング)ばかりしていたので、『読書なんてする余裕はない!』と思っていたのが正直なところです。『だからこんな軽い人間になってしまったのだな...』と改めて後悔しています。ただ、今から紹介する2冊だけは真剣に読みました。1冊は、夏目漱石の『こころ』。この作品は一部が教科書に載っていて、授業を受けた中で唯一『全部読みたい』と思いました。もう1冊は、太宰治の『人間失格』。この作品は題名が衝撃的だったため、初めて聞いた時から読んでみたいとは思っていたのですが、ある友人から「それ読んだら暗くなるぞ」と言われたことに反発して読んでみました。どちらもメジャーな作品なので読んだ人も多いかもしれませんが、私に生きることの難しさや大変さ、そして人間の深さを教えてくれた思い出深い作品です。



2 私は推理小説が好きなので、1冊ではないのですが、内田康夫さんが著した『浅見光彦シリーズ』をお勧めします。主人公の浅見光彦が、雑誌の取材や旅行などで訪れた場所で事件に遭遇し解決していくのですが、その中にはその地の風景や歴史が詳しく記述されているので、その場にいるような感覚を味わうこともできますし、『旅に出たい』と思わせてくれます。また、犯人には『逮捕されても仕方ないな』という悪人もいるのですが、ときには切なくなるような理由で殺人を犯してしまう犯人もいて、事件を解決したあとに涙を流す浅見光彦の優しさにも惹かれています。すでに100冊以上が発刊されていますが、私のお勧めは、『天河伝説殺人事件』と『長崎殺人事件』です。どちらも胸が苦しくなるようなラストが待っています。図書館には置いていないようですので、進学してから読んでみてください。

吉田優先生



1 正直なところ、高校生の頃は余り本を読んでいなかったように思います（図書部だったのに、…）。ジャンルでは文学作品よりも、テレビドラマになっている、内田康夫の浅見光彦シリーズ、赤川次郎の三毛猫ホームズシリーズ、西村京太郎のトラベルミステリーなどの推理小説を多く読んでいました。トリックを考えたり、犯人を推理したりしながら読み進めていて、意外と頭を使ったような気がします。高校時代にもっといろいろな本を読んでおけば良かったと感じています。



2 『民王』 池井戸潤

池井戸潤と言えば半沢直樹シリーズのような銀行や企業関係の小説が多いのですが、この本は政治に関するものです。首相・武藤泰山が、ある日突然、大学生のドラ息子・翔と中身が入れ替わってしまう…。これはデロカ？といった本当はあり得ない設定でありながら、本当に起こったようなシチュエーションを織り交ぜながら、大人とは何か、国を動かす政治とは何かを考えさせてくれます。

内野悠美先生



1 高校時代は濫読していたのでどれが良かったとか書けないのが残念なんです。いつかの模擬試験の小説の問題で、山田詠美さんの『僕は勉強ができない』の一節が出題されて、問題を解きながら続きが気になって仕方なくなって、模試終わってから図書館に借りに行ったのを覚えています。それから山田詠美さんの本はあるもの全部読んだなあ～。そういうのが多いです。ハリーポッターも読んだし、ロードオブザリングも読んだ。毎日少しずつ時間にとって、気分転換みたいな感じで読書していました。

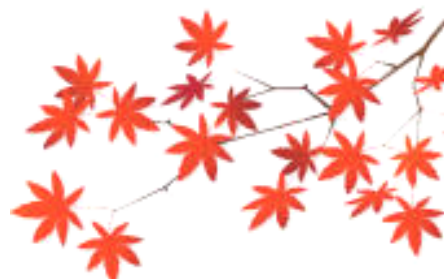


2 ① 『動物ω（オメガ）図鑑』 松原卓二

② 『先生、巨大コウモリが廊下を飛んでいます！』 小林朋道

①について。動物の「かわいい」ところは、「口とその周辺」だそうですよ！ということで、動物の「口とその周辺」を中心に写真が収められています。ええもう、癒しです、ニヤニヤしちゃいます。

②について。まず、鳥取環境大学には「ヤギ部」がある！という衝撃。メインはヤギさんのお世話らしいのですが、ヤギと学生の交流も楽しそうだし、作者の小林先生が、本当に生き物大好きなんだなあというのが文章から伝わってきます。生き物って、すごい！



野口武靖先生



1 私は読書が好きではありませんでした。自ら進んで読書した記憶もありません。そんな私でも読書感想文を提出しなければならなかったため、高校3年間で本を1冊読んでいます。早く読み終わるために、なるべく話が短そうな本を選んだので本のタイトルや内容はまったく覚えていないのですが、なんとか1冊を読み終えたときの達成感は今でも覚えています。しかし、それ以降は読書をする気が起きず、大学を卒業した後で読書に興味を持ち始めました。



2 「これが物理学だ！」 ウォルター・ルーウィン 著 東江一紀 訳

物理っておもしろい。科学っておもしろい。改めてそんな気持ちになれる本です。マサチューセッツ工科大学教授のルーウィン氏が行った「体を張った実験」が複数紹介されており、これも魅力的なのですが、それ以上に「難しい」と思われがちな物理をルーウィン氏が「易しく」説明してくれることがこの本の大きな魅力だと思います。科学に興味がある人、反対に科学に苦手意識を持っている人にはぜひこの本を読んで欲しいと思います

川田理恵先生



1 高校時代の読書の思い出は、朝読の時間です。ほんの10分間でしたが、映画化やドラマ化で注目されたものから、ただ表紙がかわいくて興味を持った本に、絵本まで、幅広く読んでいました。読み始めると、本の世界に入り込んで、あっという間に朝読の時間が過ぎてしまいました。あと、料理本ですね。それと、ラッピングの本。友人とお互い貸し借りしながら、気に入ったレシピはメモを取って、レシピ集を作っていました。高校時代は、本を読むのは得意ではなく、多くの本を読んではいないけれど、さまざまなジャンルの本に触れることができた学生時代だったと思います。

2 ①『からすのパンやさん』 かこ さとし

②『絵本「からすのパンやさん」のパンをつくろう!』 文化出版局編

①：この本は、私が幼稚園に通っていた頃に、親戚にプレゼントしてもらった本で、いまでも大切にしています。カラスの子どもたちが、パン屋を経営する両親の姿をみて、手伝いながらたくましく育つ様子が、いきいきと描かれています。途中にパンがいっぱい描かれたページがあって、私はそこが大好きですね。

②：『絵本「からすのパンやさん」のパンをつくろう!』

っ！！なんと！からすのパンやさんのレシピ本がある！！

＊ レシピ本なので、もちろん作ることもできますが、いろんな形のパンの写真を眺めているだけで、癒されます。自分のために、誰かのために、こんなアイデアが浮かぶ、工夫ができるって、素敵なことですよ。



お知らせ

・9月の貸出冊数は295冊でした。(昨年度は275冊) 読書週間期間中、より多くの来館を待っています。秋はぜひ図書館で楽しいひと時を過ごしましょう！

